

2010年10月号 Mini-WAN

～三河湾を舞台に～

国土交通省中部地方整備局
三河湾事務所発行 (No.44)

ふりふり
ふーりーごびりーごひ。



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■最近のトピックス

- 三河港防波堤(北)が54m延びます！ ○環境省が三河湾を現地調査 ○三谷魚市場まつり
- 豊川市立東部小学校5年生が三河港内見学 ○JICA研修生(港湾戦略運営部門)三河港視察
- 「ラブポートタウンとよはし」が開催されました
- 川と海のクリーン大作戦 ○管内野球大会が開催されました

■編集後記



☆最近のトピックス☆

○三河港防波堤(北)が54m延びます！

現在、三河港入口にある防波堤(北)の延伸工事を行っています。

防波堤は港内を波浪から守り、静穏に保つことで船舶の荷役作業の安全確保に非常に重要な役割を担っています。特に、三河港は冬になると西風が強く、風による波浪の影響を大きく受けるため防波堤が必要になります。下の写真のように、防波堤の港外側と港内側では波の状態が全く違い、港内側では静穏が保たれています。



工事位置図

今年度工事では防波堤(北)が54m延伸され、全体で約2,180mとなります。この防波堤はケーソン(コンクリートの箱)式です。一般的なケーソンは直方体が主流ですが、三河港ではよりコストがかからず丈夫な、底面が大きい逆T字型をしたケーソン(バットレスケーソン)を採用しています。今年度は長さ9m×幅2.9m(底面幅5.9m)×高さ8.5mのケーソン(290トン)を6函据え付けました。据付は海が静穏な日に行い、1函に要する時間は約1時間半です。クレーンで吊り、据え付けるだけですぐに時間がかかります。また、ケーソンは据え付けてしまうと数十センチしか海面上に出ないため小さく見えますが、海中には大きく丈夫な構造物が座っています。

当日は、豊橋市の副市長を始め職員13名が、滅多に見ることのできないケーソン据付作業を熱心に見学されていました。



防波堤の内側と外側の様子

ケーソン据付け状況

ケーソン据付けを見学する豊橋市職員の方々

○環境省が三河湾を現地調査

9月16日、環境省環境影響評価室の職員3名が三河湾を現地調査しました。

この調査の目的は、国土交通省と愛知県が連携して、平成11年度から平成16年度にかけて実施された中山水道航路浚渫工事で発生した良質な浚渫土砂を三河湾内39箇所で覆砂（干潟・浅場造成含）するというシーブルー事業に関する当時の状況及び現状を把握するためのものです。

最初に当事務所にてシーブルー事業の概要及び現在の三河湾における環境改善の取り組み等の説明をした後、御津地区、西浦地区等のシーブルー事業で造成した干潟・浅場の現地調査を行いました。環境省職員からは、「人工的に造成した干潟等が造成前の自然環境に悪い影響を与えてないか?」「造成干潟でアサリ以外の生物の状況はどうか?」といった質問に対し、生物の生息状況等を説明し、納得された様子でした。

浚渫土砂の有効活用やシーブルー事業の効果、三河湾における様々な環境改善に関する取り組み等について、より一層の理解を深めていただいた1日となりました。



蒲郡市西浦地区での現地調査の様子

○三谷魚市場まつり



船上からの視察の様子

10月10日、蒲郡市の三谷魚市場にて「三谷魚市場まつり」が三谷漁業協同組合主催で開催されました。サンマのつかみ取りや水産物せり市等が催され多くの来場者でにぎわう中、当事務所の港湾業務艇「しおさい」で三河港内を見学していただきました。前日は大雨で天候が大荒れでしたが、当日は晴天に恵まれ60人余りの方に参加していただきました。

日頃馴染みのない港湾事業について知っていただき、浚渫工事から発生した土砂を用いての「覆砂（良質な砂を海に撒いて、砂でヘドロの表面を覆うこと）」についても理解を深めていただきました。

○豊川市立東部小学校5年生が三河港内見学

10月5日、豊川市立東部小学校5年生80名が三河港へ社会見学に訪れました。当事務所では、豊橋市港湾活性課のご協力のもと、ポートインフォメーションセンター「カモメリア」で、展望室からの港の案内、研修室において三河湾の環境、三河港の貿易に関する学習会及び当事務所港湾業務艇「しおさい」による海上からの見学を実施致しました。

船内では、岸壁に係留している自動車運搬船に完成自動車が次々と積み込まれる様子に歓喜したり、港内に立地する主な企業についての説明に児童たちは熱心に耳を傾けていました。また、研修室での環境、貿易の学習会では、愛知県がアサリの漁獲量全国1位であること、三河港は完成自動車の取扱が全国でトップレベルであることに驚きを見せていました。普段接することのない海、港に触れたことにより、児童達にとって思い出に残った1日になったと思います。



カモメリアでの環境・貿易に関する学習会



展望台での様子



船内での様子

○JICA研修生(港湾戦略運営部門)三河港視察

9月15日、JICA(独立行政法人国際協力機構)の主催する「港湾戦略運営セミナー」を受講している研修生(21カ国)29人が三河港を訪問され、当事務所にて三河港の説明を行ないました。

神野ふ頭にある、カモメリアにおいて三河港における国際自動車コンプレックス計画※についての講義を聴いていただきました。その後、フォルクスワーゲングループジャパンに移動し、なぜ三河港を中心に事業が展開されているのかという説明を聞いた後、工場見学をしていただきました。各国の港湾行政及び管理運営分野で中核となる幹部職員の方々とあつて、自動車による港湾活性化に興味を抱いているようでした。

※国際自動車コンプレックス計画とは、三河湾において国際的な自動車産業複合拠点作りを目指すもので、自動車の企画設計からリサイクルまで、自動車のライフサイクルに関する一連の活動を、国内企業及び外資系企業が一体となって拠点化することを全体像としています。



カモメリアでの様子

展望台で熱心に質問する様子

○「ラブポートタウンとよはし」が開催されました

9月25日～26日にかけて「港が賑わえば、豊橋がもっともっと楽しくなる！」をテーマとした「LOVE PORT TOWN とよはし2010」がホテルシーパレスリゾートで開催されました。



ステージを楽しむ皆さん

このイベントは世界有数の自動車港である豊橋港を含む三河湾をPRするため、有志が実行委員会を組織し、2008年から今年で3回目の開催です。当日は豊橋港と関係の深いドイツをテーマとしたドイツマーケットが開催され、また、ステージでは豊橋技科大生によるライブやオトトポスの太鼓パフォーマンスなどが繰り広げられ多くの人で賑わっていました。

ドイツマーケットでは豊橋の飲食店が参加しドイツビールやソーセージを始めとした屋台を出していました。会場では第31代ミスみななどがオープニングイベントに出席した後、イベントを盛り上げるため来場者へチラシの配布を行っていました。

○川と海のクリーン大作戦

10月17日、渥美半島の先端に位置する田原市の西の浜海岸にて「川と海のクリーン大作戦」が行われました。

これは、以前のようなふるさとの美しい川や海を取りもどし、次世代の子どもへと受け継いでいくことを目的に、地域住民の方々と一体となって川原や海岸のゴミ拾いを行う清掃活動です。

当日の天気は曇り、やや風が強く体感温度は低く感じました。その中で集まっていたいただいた方々は約50人。前日まで天候が荒れていたということもあり、海岸には沢山のゴミがうちあげられていました。

午前10時から清掃活動が始まり、参加者は一斉にゴミを分別しながら拾い始めました。ペットボトル・空き缶・空き瓶・ポロポロの靴・ボール・発泡スチロール等、様々なゴミが落ちていました。1時間程の清掃活動ですがあっという間にたくさんのゴミが集まりました。

それでも今回清掃活動した箇所はほんの一部で、海岸にはまだまだゴミがたくさん落ちています。きれいな海を取り戻すために引き続き活動を続けていきたいと思ひます。



清掃活動の様子

○管内野球大会が開催されました

9月18日、愛知県東海市の神宝緑地運動公園で第42回管内野球大会が開催されました。中部地方整備局管内の港湾関係事務所から全6チームが参加し、3チームずつ2リーグに分かれ試合を行い、各リーグの1位通過チームで決勝戦を行いました。

41回の歴史の中で三河港は1回も優勝がなく今年こそ優勝を果たすため、休休みには酷暑の中でできる限り練習を積み重ね、試合が近づくにつれチームの団結力も高まってきました。

試合当日、1回戦を11対6で勝利し、2回戦は途中まで投手戦となりお互いなかなか点数を積み上げることができませんでした。最終回直前に三河港チームが一挙5得点を挙げ6対2で勝利しました。そして決勝戦、相手は試合前から優勝がささやかれていた強豪チームで、満塁ホームランを打たれるなど12点を奪われましたが、三河港もヒットをつ

なぎ、また、ホームランを打つなどして得点を重ね、13対12で勝利を収めました。

三河港は42回目の大会にして悲願の初優勝を果たし、チーム一同大喜びでした。



三河港湾事務所、初優勝しました！

☆編集後記☆

今年の夏は記録的猛暑で毎日暑い日が続きました。

程々の暑さであれば海や山、避暑地など行楽地を訪れる機会も増えたかと思いますが、あまりの暑さで出掛ける事にも抵抗があり、また、熱中症への注意を呼びかける報道が追い打ちをかけ、結局、クーラーの効いた屋内で過ごす事が多くなってしまったのが今年の夏の反省です。

この高い気温はいつまで続くのかと不安ではありませんでしたが、いつの間にか街ゆく人の装いも秋らしくなってきたのではないかと感じています。「暑さも寒さも彼岸まで。」地球温暖化による気温の上昇など言われて久しく、さらに今年は猛暑日、熱帯夜が続きましたが、四季のある日本にはきちんと秋がやってきます。

さて、当事務所では、9月から10月にかけて小学生の皆さんと海に出る環境や地域などの学習会（見学会）をいくつか行いました。

見学会では児童の皆さんを案内する立場になりますが、児童の皆さんから教えられることもたくさんあり良い刺激になります。学校で勉強する事はいうまでもなくとても大切ですが、たまには外に出て現地を訪れての体験型学習なども良い機会なのではないかと思っています。

運動の秋、読書の秋・・・何かを始める、何かにチャレンジする良い季節ではないかと思えます。

是非色々なことに挑戦してみても如何でしょうか。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間※/9:00~12:00と13:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの「海とみなとの相談窓口」につながります。

三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>